



Slow Food®



Terra
madre

Newsletter

2013年9-10月

テッラマードレ・デー 2013

12月10日は、スローフード、テッラマードレと共に地域の食を祝う日です。

今年は特別な関心が味の箱船に向けられることになっています。さあ皆さんも一緒に盛り上がりましょう!

来る12月10日、地域の食を讃える目的で生まれたスローフードによる世界祭典「テッラマードレ・デー」が、今年で第5回目の開催を迎えます。会員の皆さんもそうでない方々も、私たちと一緒に祝いましょう!

この日は皆さんがどこに居ようと、好きな方法で構いません - 仲間内でのピクニック、食に捧げるフェスティバル、ビデオ上映、マーケット、単純にご友人との夕食会でもよいのです - とにかく地元の食品をこの日の主役にしていただきたいのです。

今年のテーマは、消滅のリスクにある食品を保護するというもの。世界中で農業の産業化や土地の埋め立て、急き立てられるようなライフスタイルといった要因が、土着の青ものや動物品種、チーズ、パン、菓子などの伝統食品を危機に陥れています。

消えゆく危機にある食品の多くを選び出して記録にし、味の箱船のカタログに載せるため、スローフードは活動を行っています。

テッラマードレ・デーは新たに加わる食品を紹介するため、そして既に“乗船”している食品について、これらを生んだ知恵や実践、文化や土地などの背景と合わせて知ってもらうためには重要な機会となります。こうした食品を保護するために何かアクションを起こす、人々の関心を集めるために最適のチャンスでもあるのです。

味の箱船の食品をプロモーションするには、多くの方法があります。例えば1人ないし複数の料理人に対象食品を紹介し、評価・調理してもらおう。あるいは地元の食品でリスクにあるものを探し出し、味の箱船への候補品としてオンラインフォームから申し込みをすることもできるでしょう。

(http://www.fondazione Slow Food.it/pagine/ita/arca/segnala_arca.lasso?-id_pg=82).

言葉より実行! 守るべき新たな食品を見つけ、広く知らしめるのに手を貸してください。一緒に、私たちを取り囲む並外れた農産物の多様性の大きな地図を描き、世界中に向けて強くアピールしてゆきましょう。

何を待っているんです? 今から準備して、12月10日を共に祝いましょう! 近隣のイベントを探るか、そうでなければ大小に関わらずあなたがひとつイベントを企画してください。過去のイベントにヒントを得てみてください、テッラマードレ・デーのサイトから素材をダウンロードしてみてください。そしてご自身のイベントを登録することも忘れずに。世界各地で同時開催される他の企画と共に、世界地図に書き加えられることでしょう。

www.slowfood.com/terramadreday

100の菜園のための100日間

100の菜園のための100日。アフリカの100の菜園に息吹を与えるため、9万ユーロを集める100日間。多額でしょうか？あまりに夢見がちな数字でしょうか？そんなことはありません：皆で一緒に種を蒔けば、1ユーロまた1ユーロ、募金は大きく素晴らしいものになるでしょう。

去る9月の『Cheese』で開始したクラウドファンディングキャンペーン“100の菜園のための100日間” (linkto:100x100orti.org)の歩みは、ある意味まだ始まったばかりです…

アフリカに菜園のネットワークを作るという我々の活動は、以前からスローフードをフォローしている方にとっては、全くの号外ではないでしょう。私たちはテッラ・マードレ2010で新たな夢を投げかけながら、確信に満ちて、食の権利と食糧主権の道へと始めの小さき第一歩を踏み出しました。この夢の名は『アフリカに1000の菜園を』(linkto:www.fondazioneSlowFood.it/milleorti)といい、アフリカ27ヶ国の学校の中庭、集落の一角、都市郊外で耕作可能な空き地を対象とするものです。

特に、これまでにこの夢は非常に多くの人々を巻き込んできました：自らの知識を役立てたいとする50名のコーディネーターたち、アフリカの3万人の男女と子供たちが、種を蒔きながら、水やりをしながら、植物が育つ間世話をし、調理の仕方を習いながら…そしてもちろん食べながら、地域の食と有益なつながりを再構築したのです。そして様々な額によりプロジェクトを支援しようと考えてくださった方々の寄贈 – その合計額はxxx にまで達しました – があったのです。農機具の購入を支援した者、苗床作りのための資材を調達した者、また別の者は実に革新的な – 畑に水をまくことができ、同時に正確な水資源管理もできるという – 灌漑設備の実現のために寄贈をしてくれました。また、畑一枚に必要な全てを供給し、面倒を見てくれた方もありました。

プロジェクトの始動から3年、ほぼ800の菜園が里親にもられ、一度は私たちの原理である“slow”に逆らってアクセルをぐっと踏み込み、アフリカの菜園キャンペーンへ向けて邁進するのは正しいのだと、私たちには思えたのです。私たちは明確な目標を掲げました：それは、もう100の菜園のための投資で、キャンペーンの開始から100日目にあたる12月29日を期限としたのです。『Cheese』では、このクラウドファンディング計画の最初の成果を見ることが叶い、Xデーまで86日目、たくさんの小さな寄付により15.000ユーロ近く、つまり目標総額90.000ユーロの16%を集めることができました。加えて一般的にクラウドファンディングは知識や情報の共有も意図することから、数多くのフェイスブックのページやツイッターアカウント、グーグルプラスのプロフィール上で、プロジェクトは共有の財産となったのです。まさに共鳴箱のごとく、強大なロコミという影響力がソーシャルメディアの素晴らしいところでは。

多くの投資と多くの人々のための知識：100の菜園のための100日間の最初の歩みは、皆で手を取りあえば本当に実行することができることを、皆で協力すれば1ユーロもう1ユーロの後に、より豊かでより素晴らしい、より分かち合える明日に本当に貢献することができるのだということを、私たちに示しています。アフリカのために、そして私たち自身のためにも。

プロジェクトの詳細を知るには、寄付するには、寄付と引き換えに何を受け取れるのか知るにはこちら：www.100x100orti.org

フェイスブックにプロフィールをお持ちですか？それならこの大きな夢を友達とシェアしてください。

ツイッターにアカウントをお持ちですか？それならプロジェクト『#100x100slow』についてコメントしてください。

Cheese 2013

25万人の来場者を迎え、かつてないほどの混雑と賑わいのうちに、第9回『Cheese (チーズ)』が幕を閉じました…

クーネオ県ブラ市に世界中から多くの酪農家代表者たちを集結させた、興奮に満ちた4日間を、スローフード・イタリア会長であるロベルト・ブルデーゼ (Roberto Burdese) 氏は次のように締めくくりました。「チーズのひとつひとつの中には、職人の技と、経済と、一連の生産過程が取り込まれています。動物の放牧から熟成、製造から消費までが関わります。この数日間のうちに、私たちはこれらを実際に見て、手で触れました。」マスター・オブ・フードとファミリー向けの教育活動、テイस्टینگ、カンファレンスはどれも満席のうちに終わりました。文学喫茶 (Caffè

Letterario)では、自家製ビールと新刊紹介の間に、議論におしやべり、笑い、テイスティングがひっきりなしに続き、中庭は大変な混雑となりました。マーケットの出展者の多くからは、『金曜日からこれほど沢山の人の人だかりを見たことがない』という満足の声があがりました。

調査(人の流れ、駐車場の入れ替え、シャトルバスの利用者数、市内へ入った車輛数)によれば、かつてない程の彩りと天気にも恵まれた今回の『Cheese』には、およそ25万人の来場者があったと推定しています。「堅実な製品を作り、私たちの経済シンボルである乳製品業界を復興させようと奮闘する酪農家、牧民、小売商人たちが多くいること」を証明するべく人々が駆けつけたのです、ブルデーゼ氏は続けます。エチオピア- Karrayyuの放牧民によるラクダのミルクから、南アフリカの非加熱殺菌チーズまで、本当にあらゆる味の珍しいものが沢山、世界中からブラに集まりました。恒例のストリートフードには人だかりができ、また、“チーズを救え！”プロジェクトには250ものチーズが持ち込まれ、味の箱船に充てられたスペースを鮮やかに彩りながら、多くの来場者たちから参加を得ることができました。

『Cheese』会期中に確かに確認できた公衆における成功と、関心を見て、「私たちはこれらのテーマについて、イベントを終えても、スキャンダルやテレビとは関係なしに論じ続けねばなりません。農民や熟成家、放牧民の生業を阻むのではなくて、これを支援するために投資を始めなければなりません。本当に何かを変えるために、酪農業に当然の尊厳を取り戻すために、力を合わせようではありませんか」、このようにブルデーゼ氏は締めくくりました。

秋晴れの光に照らされるうちに、ブラの町に幕が下りました。次回は2015年にお会いしましょう！

『Cheese』の4日間の写真と、会期中に公開された英語の記事を是非ご覧ください。

我らが生物多様性

おいしくきれいで正しい食を守るのには多くの方法があります。3つの小冊子と1つの映像が、どのように生産者を区別し、味の箱船への製品を選び、プレシディオを設立するかについて説きます…

生物多様性って何？何故それを保護するのがそれほど大切な？私たちひとりひとりには何ができるの？これらの問いに答え、協会全体に対して、そしてこのプロジェクトに貢献したいという人たちへ役立つツールを供給するため、スローフード基金は - 農学士、大学教授、技術者、生産者ら - の力を借りながら、生物多様性・味の箱船・プレシディオ-スローフードに関する教育素材を具現化しているところです。

小冊子は、生物多様性とは何か、私たちの日常の食生活にどう関連するのかを具体的な例を挙げながら説明し、消滅のリスクにある製品をどのようにマークして世界最大の味のカタログである『味の箱船』へと導き、さらにはどのようにしてプレシディオ事業を指導させるか、生産者との関係づくり、活動計画の立て方まで実践方法を解説します。

生物多様性を保護するために、あなたからもご協力をお願いします！このツールを、皆さんの友人、生産者、信頼する料理人、意欲のある学生たちの間で広めてください！

英語とイタリア語(近くスペイン語、フランス語、ポルトガル語、ドイツ語も完成の予定)で、小冊子はこちらのウェブサイトからダウンロードが可能です: www.fondazione Slow Food.it.

小冊子のダウンロードはこちらから

<http://www.fondazione Slow Food.it/it/pubblicazioni/27/le-pubblicazioni>

映像をみるにはこちら:

<http://www.youtube.com/watch?v=Xtle5wD2WWs>

より詳しく知りたい方は:

fondazione@slowfood.it

アジオグスト(AsiO Gusto): 大成功!

アジア地域で初のスローフード国際イベントとなった『アジオグスト』は、6日間に及ぶワークショップ、会議、ファーマーズマーケット、料理コンテストを終え、10月6日(日)、韓国-ナムヤンジュ(南楊州)市で閉幕しました。イベントは50万人の来場者、アジア-オセアニアの40ヶ国から小規模生産者と代表者らを迎えて大成功を納めました。イベントはアジア-オセアニア地域の食の多様性を展示しながら、全国メディアの注目をしっかりと掴み、地方で興隆しつつあるスローフード運動に勢いを与えるものとなりました。

アジア-オセアニア地域は生物と食の多様性に富み、今も耕作される米の伝統品種は10万を数え、発酵食品や香辛料に数千もの種類の茶、そしてこれらにまつわる豊かな食の伝統が伴っています。ところが世界の他の地域と同様に、こうした伝統の多くは欧米からの影響や、標準化しつつあるより性急なライフスタイルの増長のために危機を迎えています。多くのアジアの食の伝統が重要なのは、それらが人々の身体的健康とばかりでなく、精神の営みとも強く結びついているからです。スローフードはイベント会期中、前述の論点に関心を集めるべく、味の箱船の木製モデル-リスクに瀕する食品のカタログ-に、世界中で今では1,200以上を数える対象食品の中から350を展示しました。味の箱船は、8つの製品をノミネーションするプロジェクトを始動させようとする韓国と共に、アジアに豊穡な土地を見つけ出そうとしているところです。

イベントでは、スローフード・ユース・ネットワーク(SFYN)もパビリオンに自らのスタンド設け、また、韓国と世界におけるネットワークの活動紹介を行うカンファレンスを開催、そして2つの“Yori Gamu”イベントも合わせて、活発な様子を見せました。イベント“Disco Soup”では、市場で廃棄されかけた野菜を救出して調理し、音楽にカクテル、ポジティブ・エナジーに溢れる環境で来場者へ無料配布しました。アジオグストは、小さなグループが多くの若手農家やシェフらと連携して可能性を秘めた大きなネットワークへと発展してゆくための、韓国におけるスローフード・ユース・ネットワークのターニング・ポイントと意識されていました。

「楽観的予想値の2倍を超える思いがけない数の人々が、この小さな町を訪れてくれました。去りし数日間に得たポジティブな手応えとエネルギー、情熱は、この地域の人々が既往の食のシステムにチャレンジする準備が既にできているという、確かな表れだったと言えるでしょう。」有機農家で、国際スローフード・カウンセラー・韓国担当のByungSoo氏はこのように述べました。

「今回のアジオグストは、まだ始まったばかりです。」

イベントのハイライト写真をご覧ください